

## 資料 1 友だちになるために（交流相手校の先生方へ）

### 1 障害のとらえ方

社会の障害のある人に対する理解が進み、福祉教育資料や道徳副読本やテレビ番組、ビデオ教材などを目にする機会が多くなりましたが、知的障害を取り上げたものは少ないのが現状です。他の障害種はそれぞれ共通した障害の特性があります。それらの障害は目に見える形で表れています。

ダウン症などでは容貌で目に見える形に表れますが、知的障害は多くの場合、説明や解説によって子ども像や人間像をとらえにくい障害です。

知的障害の定義（AAMR）は3つの条件によってとらえられています。第1は発達期（出生から18歳）に始まるものであること、第2に知的機能が平均よりも低い（知能検査で2標準偏差以上）こと、第3に適応行動に障害があること、となっています。

適応行動の障害というのはパニックやこだわりなどの「困った行動」「変わった行動」「問題行動」などと言われます。

現在、障害に対する考え方が変わりつつあります（WHO 国際障害分類改訂作業）。参加の制限という障害は本人だけでなく、その人を取り巻く環境との相互作用による、という考えになるようとしています。それにより、参加の制限を軽減するための働きかけは本人と環境の双方に対して行われるようになります。

つまり、知的障害のある人の変わった行動は周囲の環境からの刺激に対する反応（意思表示）であるにとらえれば、その行動を理解しようし、やがて理解できたときには、それを生じさせていた環境を改善することができます。環境に働きかけることにより、障害が軽減されます。

群馬県内の特殊教育諸学校には、盲学校（県立1校）、聾学校（県立1校）、養護学校（18校）があります。養護学校は障害によって3つに分類されます。1つ目は知的障害養護学校（国立1校、県立6校、市立6校、私立1校）、2つ目は肢体不自由養護学校（県立3校）、3つ目は病弱養護学校（県立1校）です。

本校（榛名養護学校）は主たる障害が知的障害のある児童生徒を対象とした学校です。校区は北毛全体（沼田市、渋川市、利根郡、北群馬郡、吾妻郡、勢多郡・群馬郡の一部）に広がっています。

ご承知の通り、子どもは本来地域社会で育ち、地域社会で生活していくものです。しかし地域の友だちから離れ養護学校に通学する児童は、友だちも少なく、地域での体験活動が圧倒的に少ないのが現状です。これはある意味で「参加の制限」であると言えます。この状況の改善を目指すのが「居住地校交流」です。

そして、この交流を通して本校の児童の名前と顔を知ってもらうことで、家族や地域全体が存在を知るようになり、街や近所で気軽に声を掛け合うことができたり、どうしてよいかわからずに困っているときに声かけをしてもらえれば、どんなに住み良い地域社会になることでしょうか。

## 2 知的障害のある児童を理解し、受容してもらうために

学級に特学がふさわしい児童や多動の児童がいたり、クラスメイトから軽視されている児童がいたり、特殊学級の児童に対する態度によっては、同じ弱者であっても訪問者である本校児童は大切にされるような矛盾が生まれることが考えられます。

低学年の児童はきまりを守ることを重視する傾向があります。ルールやきまりを十分に理解できていない本校児童がルール違反をすることや、ふざけ、いたづらをしたり、「こんにちは」「ありがとう」などのあいさつができないこともあるかと思えます。他の児童同様注意をしていただいた方が、児童の目には自然で公平であり、より好意的に受け止めてもらえらると思えます。

ただし、注意を聞けないことがあっても悪気がないことをご理解ください。

本交流は、あらかじめきょうだいを含む家族の同意を得てから申し込みをしています。きょうだいがいる場合は、心ない冗談やからかいの対象となって嫌な思いをしないようご配慮をお願いします。

## 3 知的障害の疑似体験の方法

児童の興味や必要に応じて知的障害の疑似体験を行ってみてください。

理解不能のメッセージを受け取る人の立場を体験する。

二人が廊下に出ている間に他のクラスメイトが教室内のものの名前（机、黒板、カバンなど）を新しくつけ直す。二人が教室に戻ったら「カバンの上にボールを置きなさい」など指示を受ける。この体験を通じてハンディキャップがあることをどう感じるか、どのように接してほしかったのか、どのようなことが嫌なのか討論する。

あいさつや返事ができない子

車酔いをしているときには、相手を喜ばせるような対応（笑顔、話しかけに答えるなど）ができない。障害のある児童は必ずしも気分が悪いわけではないが、相手に対する悪意はないことを理解する。

集会や授業中に座ってられない子、話が聞けない子

- ・窓の外を見たら雪が降ってきたのを見つけ場合、しばらく外を見続けて、友だちに話しかけたり、大きな声で「あっ、雪だ！」と叫んでしまう。
- ・黒板やガラスをひっかく音などの不快な音がすると思わず耳を押さえたり、その場から離れてしまいたくなります。
- ・夜一人でトイレに行くのが怖い人。オバケなんているわけないさと知りながらも、何かいるような気がして行きたくない。行ったとしても用が済めば急いで立ち去りたい。

## 4 養護学校でどんな勉強をしているの

養護学校には「自立活動」という自立に向けた学習があります。これは個別の目標があってそれぞれの課題に合わせて学習をします。1クラスの人数は2～5人程度です。実質

的にはほぼ2人担任制です。小学部には自力通学する児童はいません。保護者の送迎やスクールバスを利用しています。また、寄宿舍があり、遠距離通学を補うため、望ましい生活習慣を身に付けるために入舎している児童もいます。

教科書は知的障害養護学校用教科書があります。また、知育絵本や図鑑などを教科書として使用しています。

毎週火曜日は学校見学を受け入れています。それ以外でも特に行事がなければ学校見学を受け付けますので、ぜひいらしてください。

## 5 どのようにお話しをすればいいの

個別の児童のコミュニケーション方法は別途お知らせします。

## 6 いっしょに活動するとき

基本的には貴校の児童にガイド役（世話役）をしてもらう形が望ましいと思います。

しかし、活動の中に本校の児童しかできないこと、本校児童のできることなどを取り入れることにより、役割交代が起こり、どちらの児童も力を出し合い、認め合う関係を築けると考えます。

あまり大人が関与すると、児童同士の交流の障害となることが多いようです。児童同士で試行錯誤してコミュニケーションをする機会を奪い、教師と話すようになってしまいがちです。児童相互の関わりにおいては大人はオブザーバー的存在がよいようです。

## 7 だれにでもやさしいきもちで

貴校の道徳教育や人権教育との関連性を保ちながら、障害の理解をしていただきたいと思います。児童生徒のみなさんが、障害があっても自分と同じ地域社会に生きているという意識をもち、認め合い、自然に接することができることを願います。

## 資料 2      ともだちになるために

### 1    だれにだってしょうがいがおきる

かぜを ひいて、たいいくを けんがくしたことのある人は いませんか。

かぜの ために、大すきなことが できなくなって しまいます。

このように 今まで できたことが できなくなって しまうことが あります。 これも「しょうがい」のひとつのじょうたいです。



### 2    みんなだれかにたすけられている

みなさんは、いえの人に ごはんを つくって もらったり、せんたくを してもらっているでしょう。その おかげで げんきに あそんだり、がっこうで べんきょうを することが できるのです。

おとなの ひと、しょうがいのある人も おなじです。人は1人では 生きていけません。みんな だれかに たすけられて 生きているのです。

### 3    ようごがっこうにかようおともだち

みなさんのいえのちかくには、とおくの ようごがっこう という がっこうに かよっている おともだちもいます。

「ちてきしょうがい」という しょうがいあって、かんがえたり、おぼえたり するのが とても ゆっくりな 子どもです。みなさんのように おはなしを したり、じを かいしたり できない人も います。

はずかしがりやの子も いますが、あかるくて あそぶのが 大すきです。がっこうが とおいので、いえの ちかくにいる人と 友だちに なりたいのです。

ようごがっこうでは、一人ひとりの子どもに あわせて べんきょうを しています。ことばを おぼえたり、かぞえたり、ボタンをはめたり、きがえの れんしゅうも しています。

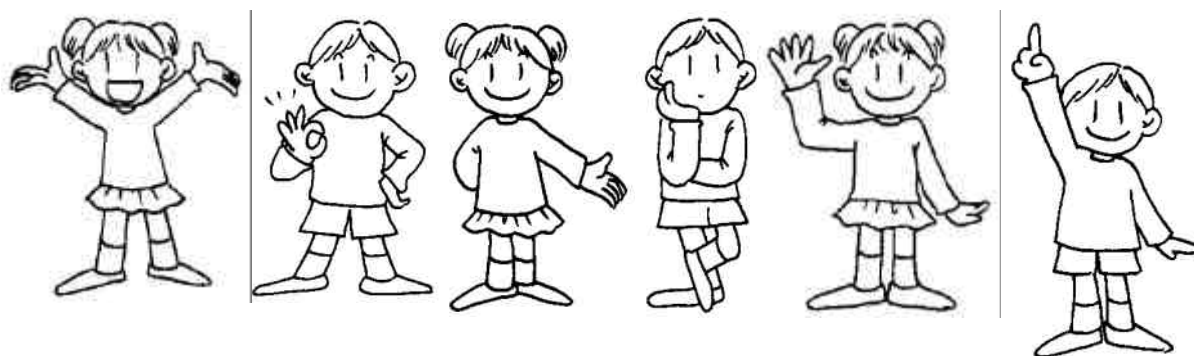
いじめや けんかのない たのしい がっこうです。



### 4    いっしょに活動するとき

- ・「    ちゃん」と なまえを よんで、はなしかけましょう。
- ・「わあ！これみて！」と ちょっと 大げさに いってみましょう。
- ・まちがったときは「これでいいのかな？」と、やさしく いいましょう。
- ・めを みて はなしましょう。
- ・ゆびさしをして おしえて あげましょう。

・できないことは てつだってあげましょう。



## 5 だれにでもやさしいきもちで

ようごがっこうの おともだちだけでなく、小さい子やおとしより、きょうだいも みんな おなじです。

こまっているときは たすけあって たのしい がっこうにしましょう。



## 資料 3

## 友達になるために

### 1 だれにだって障害（しょうがい）がおきる



あなたが高いところから飛びおりて足をくじいたり、<sup>ころ</sup>転んでヒザをすりむいたときには足が痛くて足を引きずってしまいます。友だちや先生の肩をかりて歩くかもしれませんね。

また、朝おきたらのどが<sup>いた</sup>痛くて声が出ないことや風邪をひいて体がだるい時には家の人に車で学校まで送ってもらうこともあると思います。

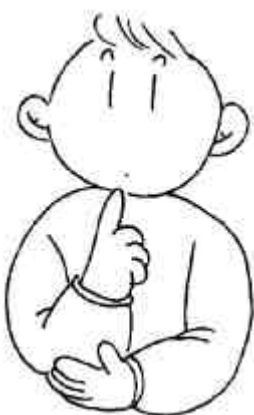
このように、今まで普通にできたことができなくなったり、だれかに<sup>たす</sup>助けてもらわないとできなくなってしまうことがあります。これも「障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>」のひとつの状態です。

### 2 みんなだれかに<sup>たす</sup>助けられて生きている

あなたがまだ、赤ちゃんだったとき、1人では何もできませんでした。オムツを取りかえてもらったり、おっぱいやミルクを飲ませてもらっていたので、今あなたが生きているのです。今でもそうです。朝おこしてもらったり、ご飯を作ってもらったり、服を買ってもらっていますね。大人も同じです。1人の人ができることはほんの少しです。それ以外は家族や他の人に<sup>たよ</sup>頼っています。

障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>のある人達も1人では生きていけません。人に<sup>たよ</sup>頼ることがみなさんよりも少し特別なだけなのです。

### 3 どんな子なのかな



世の中は、健康で元気に学校に通っている人だけではありません。目の見えにくい人や見えない人はメガネをかけたり、つえを持っています。手足が不自由な人は一人で立ったり歩いたりするのが難しいので車イスを使う人もいます。耳の聞こえにくい人や聞こえない人は、<sup>ほちようき</sup>補聴器をつけたり、<sup>しゅわ</sup>手話を使ってお話しをしたりしています。

これらの人のなかには、近くの学校ではなく、<sup>もう</sup>盲学校や<sup>ろう</sup>聾学校、<sup>ようご</sup>養護学校へ通って特別な勉強をする人もいます。私達の<sup>ようご</sup>養護学校に通う子ども達の多くは、お母さんのおなかにいる時や、産まれる時<sup>ちてきしょうがい</sup>に知的障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>という障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>をもつようになりました。

<sup>ちてきしょうがい</sup>知的障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>というのは、考えたり覚えたりするのがとてもゆっくりです。物や人の名前、きまりややくそくごとがわからないことがあります。お話しができない子やうまく話すことができない子もいます。他の人から言われたことがわからず、他の人にしてほしいこと、自分がやりたいことをうまく伝えることができません。

みんなと一緒<sup>いっしょ</sup>にすることができなかつたり、ふざけたり怒<sup>おこ</sup>ったりすることがあります。

ですから、「自分かって」とか「わがまま」と思う人もいます。

例えば、あなたが1人で外国に行ったとしたら、周りの人がいろいろ話しかけてきても言っていることがわかりませんね。あなたが言いたいことも言えません。こんなときはイライラしたり、逃げ出したい不安な気持ちになると思います。

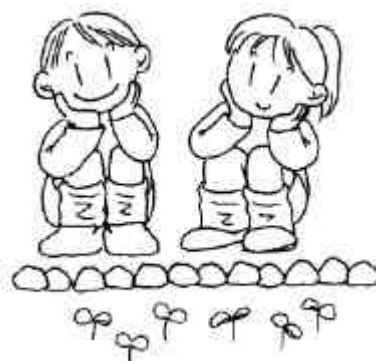
こんな時、ちょっとしたお手伝いをしてもらえるととても助かります。困っているときには気軽に声をかけてあげましょう。

はずかしがりやの子もいますが、明るくて、人なつっこい性格です。学校が遠いので、家の近くにいる人と友だちになりたいのです。

#### 4 ようご学校でどんな勉強をしているの

ようご学校には国語や算数、音楽、図工、体育、生活もあります。ただし小学校のような教科書はありません。一人ひとりの子どもに合わせて勉強をしています。言葉を覚えたり、数を数えたり、ボタンをはめたり、一人で着替えをする練習もしています。給食もあります。養護学校の給食はとてもおいしいです。

いじめやけんかのない楽しい学校です。



#### 5 どのようにお話しをすればいいの



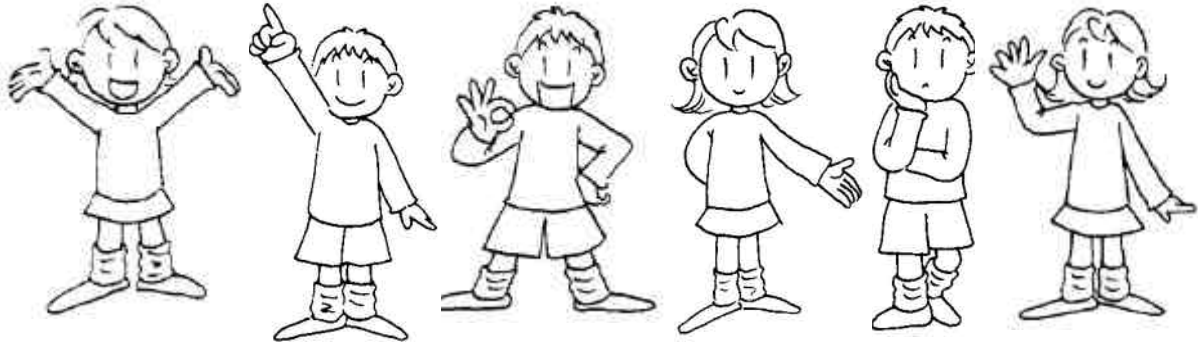
お話しのできる子もいますが、つまらない話やむずかしい質問にはだまってしまったり答えられないことや自分の好きなことばかり話してしまうこともあります。相手の目を見て興味があるかな、わかるかな、と確かめながらお話ししましょう。

お話しのできない子は、指差しや絵や写真などを使うとよいでしょう。自分だけのサインを使う子もいます。自分では話せなくても言っていることがわかる子もいるので話しかけながらするとよいでしょう。

#### 6 いっしょに活動するとき

- ・「ちゃん」「くん」と名前を呼んであげましょう。
- ・「わあ！これ見て！」とちょっと大げさに言ってみましょう。
- ・まちがったときは「これでいいのかな？」と、自分で気づけるように言ってあげましょう。
- ・目を見て話しましょう。
- ・やることを指差して教えてあげましょう。
- ・肩や背中や手に軽くふれ、つれていってあげましょう。

- ・言いたいことが伝わらないときは、くり返したり、別の言葉で言い直してみましょう。
- ・お手本をやって見せましょう。
- ・続けてやらずに順番に1つずつやりましょう。
- ・その子ができることは手を出さずに見守り、できないところは手伝ってあげましょう。



## 7 だれにでもやさしいきもちで



養護学校に通っている子だけではなく、小さい子や  
お年寄り、病気の人や友だち、

きょうだいもみんな同じ社会に生きています。困っているときは  
お互いに助け合って明るく楽しい学校や地域にしたいですね。



## 資料 4

## 友達になるために

### 1 誰にだって障害（しょうがい）がおきる



足をねんざしたり、手を骨折してしまったり、歩いたり、字を書いたり、着替えたりするのに不便になります。また、風邪を引いて体がだるいときには家の人に車で学校まで送ってもらうこともあると思います。

また、お年寄りがつえをついて歩いたり、お腹の大きな妊婦なか にんぶが立ったり歩いたりするのに苦労することもあります。

このように、誰でも今まで普通にできたことが一時的にできなくなったり、誰かに助けてもらわないとできなくなってしまうことがあります。 これらも「障害しょうがい」の一つの状態です。

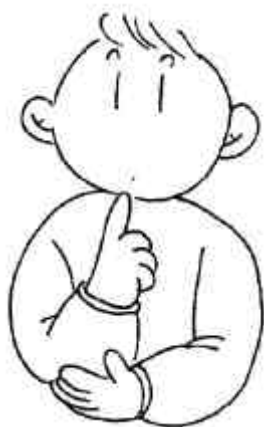
### 2 みんな誰かに助けられて生きている

障害しょうがいのある人が車イスを使ったり、車イスを押してもらっている姿を見た人がいると思います。でも、障害しょうがいのある人だけが、他人の助けを借りて生活しているわけではありません。

あなたも多くの人の助けを借りて生活しています。あなたの食事は誰が作っていますか。洗濯はどうでしょう。朝一人で起きていますか。塾や習い事に行くときの送り迎えはどうですか。

大人でも子どもでも、自分自身でできることはほんの少しです。それ以外は家族や他の人に頼っています。障害しょうがいのある人は他人に頼ることがみなさんと比べてすこし特別なだけなのです。

### 3 どんな人なのだろうか



世の中は、みなさんのように健康で学校に通っている人ばかりではありません。目の見えにくい人や見えない人はメガネをかけたり、杖つえを持っています。耳の聞こえにくい人や聞こえない人は、補聴器ほちようきをつけたり手話しゅわを使ってお話しをしたりしています。手足が不自由な人は一人で立ったり歩いたりするのが難しいので車イスを使う人もいます。

これらの人は近くの学校ではなく、盲学校もうがっこうや聾学校ろうがっこう、養護学校ようごがっこうへ通って特別な勉強をしています。

養護学校ようごがっこうに通う児童や生徒達は、考えたり覚えたりするのがとてもゆっくりな人達です。物や人の名前、約束ごとがわからないことがあります。話し言葉のない人やうまく話すことができない人もいます。他の人から言われたことがわからないことや、他の人にして欲しいこと、自分がやりたいことをうまく伝えることができませ

ん。そんな時には、ふざけてみたり、怒ったり、奇声を上げて周りの人を驚かせたりすることがあります。

でも、こんなふうに考えると、これらの行動も理解できるかもしれません。

例えば、あなたが1人で外国に行ったとしたら、周りの人がいろいろ話しかけてきても何を言っているのかわかりません。あなたが言いたいとも言えません。こんなときはイライラしたり、逃げ出したい不安な気持ちになると思います。こんな時には、ちょっとした援助でとても助かります。

困っている時には気軽に声をかけてあげましょう。

## 4 養護学校はどんなところ

養護学校には国語や算数・数学、音楽、図工、体育、生活もあります。一人ひとりの児童生徒に合わせて、言葉を覚えたり、数を数えたり、

着替えの練習もしています。中学部、高等部では、この他に作業学習という卒業後に向けた職業学習もあります。

しかし、みなさんのように近くの友だちと一緒に学校に通っていません。遠くの学校に通っているために、友だちや顔見知りが少ないことも障害になっています。



## 5 どのように話せばいいの



話しのできる人もいますが、つまらない話や難しい質問にはだまってしまったり、自分の興味のあることばかり話すこともあります。相手の目を見て興味をもっているかどうか確かめながら話すといいでしょう。

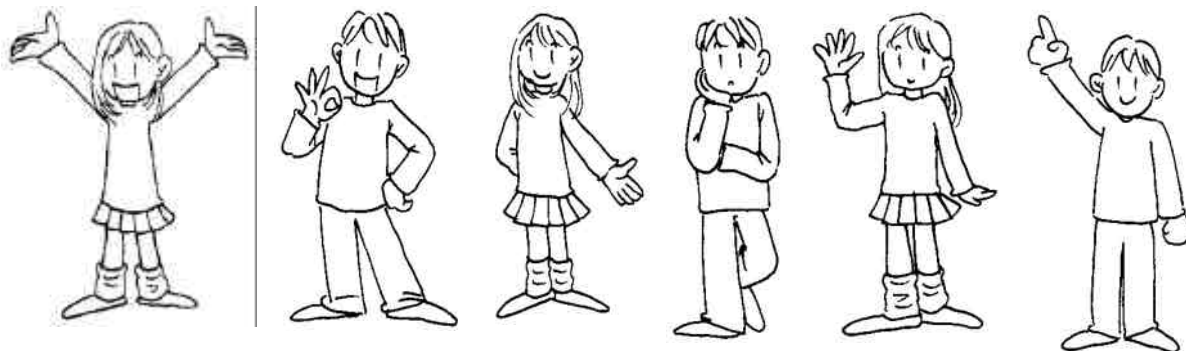
言葉のない人は、指差しや絵や写真などを使うといいでしょう。自分だけのサインを使う人もいます。自分では話せなくても、相手の言うことは理解できる人もいるので話しかけることも大切です。

言葉は通じなくても、笑顔で話したり、同じ目線で話したりすることで、心が通じ合うこともあります。

## 6 いっしょに活動するとき

- ・「さん」「くん」と名前を呼んで、話しかけましょう。
- ・「わあ！これ見て！」とちょっと大げさに言ってあげましょう。
- ・間違ったときは「これでいいのかな？」と、自分で気づけるように言ってあげましょう。
- ・目を見て話しましょう。

- ・ やることを指差して教えてあげましょう。
- ・ 肩や背中や手に軽く触れ<sup>つ</sup>連れていってあげましょう。
- ・ 言いたいことが伝わらないときは、<sup>く</sup>繰り返したり、別の言葉で言い直してみましょう。
- ・ お手本をやって見せましょう。
- ・ 続けてやらずに順番に1つずつやりましょう。
- ・ できることは自分で、できないところは手伝ってあげましょう。



## 7 誰にでもやさしい気持ちで



ようこ  
 養護学校に通っている人だけではなく、小さい子やお年寄り、病気の人や友達、きょうだいもみんな同じ社会に生きています。

困っているときはお互いに助け合って明るく 楽しい学校や地域にしたいですね。